

協定留学近況報告書

記 入 日	2022年 8月 25日
留 学 先 大 学	ペンシルバニア大学 一般教養・専門教育学部 (LPS) インターナショナルゲストスチューデントプログラム (IGSP)
留 学 先 での 所 属 学 部 等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している（以下に学部等名を記入） ※学部等名（日本語）： ， （現地言語での名称）： <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している。 <input type="checkbox"/> その他：
留 学 期 間	2022年8月－2023年5月
明 治 大 学 での 所 属	国際日本学部 国際日本学科
学 年（出 発 時 本 学 での 学 年）	学部 4年生

1. 出発前にどのように情報を集め、準備をしましたか。しておいて良かったこと、準備不足だったこと、ぜひ次の学生に準備としてアドバイスしたいことを記述してください。

出発前にやるべきことは、とにかくスムーズに海外での生活を開始できるようにする準備だと思います。準備を行う対象としては大きく以下の3つがあると思います。特に重要だと考えるのは、①と③ですが、それぞれの項目で個人的な所感を共有しますので、ご参考になれば幸いです。

① 留学先大学への手続き：

まず大前提として、**そもそも何故留学に行きたいのか、その理由に対する最善の意思決定が留学なのか、そして特に UPenn であるのはなぜか**をしっかりと考えることから始めるとブレない意志を持てる点で有効です。そして同時進行で、本当に留学に行けるのかという実現可能性について、**留学実現の条件と家庭の事情や社会情勢を照らし合わせて確認を行いました**。特に学費について、インフレと円安という状況でありましたがUPennのIGSPに参加する場合は1000万ほどの資金が必要であると思います。私のケースでは、トップユニバーシティの奨学金を獲得する、休学して長期インターンを行って留学資金を貯めるなどの方法でファイナンス面の課題をクリアしました。強い意志のみならず、留学を最後まで完結できる前提条件を揃えられる現実的な計画のもと、手続きを進めてほしいと思います。

UPennへのアプリケーションについてのアドバイスは、1点あります。UPennへのエッセイを書く際、目的意識やUPennでやりたいことを論理的に書くだけでなく、**自分自身がUPennに何をもちこたせることができるのか**という点を含めることです。UPennに行きたいと思っている学生は世界中に大量にいます。もちろん何をやりたいのかは大変重要ですが、UPennの立場に立って、**その大量の人材プールの中から自分を選ぶ理由は何か**という点をよく考えて、それエッセイでアピールすることがより大切だと考えます。

② 出国に関する手続き：

出国については、荷物とフライトをどうするのかを早めに計画して行動することが大切です（ビザの注意点は下記に記述しています）。

荷物について、私のケースではスーツケースと事前に送る段ボールとでその中身を分けました。段ボールで荷物を送る場合はEMSか国際小包を利用します。少しお金がかかりますが、手持ちの荷物が減る点、そして季節の服や必需品の日本食などを送ることができる点がとてもオススメです。

フライトについて、ASAP で航空券を取ることです。アメリカまでの航空券は片道 20 万円ほどです。なるべく安く抑えたく、これにはなるべく早く予約することが有効です。フライトの日程を決めるためには、UPenn の担当者にいつまでに到着すれば良いかを確認することが最善であると思います。例年、8 月の終わりに Fall Semester が開始しますので、8 月 31 日の 2 週間～10 日前までに到着できるようにすればよいと思います。

③ Philly 生活開始後の生活に向けた準備：

これはシンプルですが、全部一人でできるようになっておくが良いと思います。掃除、洗濯、料理など忙しい勉強の日々でもやらなければいけないことが本当に多くあります。特に洗濯や料理については、アメリカ特有の洗濯スタイルや食材が大きく関係する部分ですので、日本での練習がそのまま役に立つということではないですが、知識や知恵を吸収しておくが良いと思います。

II-1. 留学のための渡航前手続き（留学ビザ） ※詳細に記入して下さい

ビザの種類：F-1	申請先：在日アメリカ大使館
ビザ取得所要日数：2 週間ほど	ビザ取得費用：7 万弱（円）

ビザ取得のためにどのような書類の提出が求められましたか？また、どのように手配しましたか？

基本的な書類については、こちら ([URL](#)) をご参照ください。

留学に係る費用について、家族や第三者から支払いの支援を受ける場合は、それを証明する書類だけでなく、支払いを行う人との戸籍状の関係や納税状況（家族の場合）、銀行口座の残高を示す書類が必要となります。後者の場合は、市役所や銀行から書類を取得する必要があるため、予め自分の申請に必要な書類を確認することを強くお勧めします。また、書類の発行が日本語 ver.のみで行われる場合（戸籍謄本や課税非課税証明書）は、自らが英訳することが必要となりますので、その点もご注意ください。

具体的な申し込み手順を教えてください。

こちら ([URL](#)) をご参照いただければ、手続きは完了します。またアメリカ F1-VISA の手続きなどで Google 検索していただくと、丁寧に解説しているサイトが多くありますので、そちらもご参照ください。

ビザ取得の際に、留学先国大使館で面接のあった方は、どのような質問を受けましたか？

「UPenn ね。書類大丈夫そう。」という一言で Interview は終了しました。

ビザ取得に関して困った点・注意点

決められた手順に従って、必要な書類を着実に集めれば、問題なくクリアできると思います。申請にかかる費用については、留学実現のためのコストとして自分を納得させました。

II-2. 留学のための渡航前手続き（その他の事前準備について）

その他済ませておくべき準備があればお書き下さい（現地での現金調達準備、携帯電話購入、荷物運送など）

こちらについては他の項目にて説明済みであるので、無回答とします。

Ⅲ. 現地到着後のながれ

1.到着時の様子

利用航空会社	<p>往路：ハワイアン航空(羽田～ホノルル経由～ニューヨーク JFK 空港※) 復路：ユナイテッド航空（フィラデルフィア国際空港～シカゴ経由～羽田）</p> <p>※ニューヨークからフィラデルフィアは、Amtrack という現地ではかなり有名な列車を利用して移動しました。料金は片道 6000 円ほどで、1h の移動時間です。日本の新幹線のようなものを想像していただくとよいかと思います。航空券について、フィラデルフィアまで飛ぶのと、ニューヨークまで飛んでから列車で移動するのとで、価格許容度や身体的精神的負担（フライト長いですし、ニューヨークの都市部をスーツケースで歩くことになります。）の許容度を軸にどちらかにするかを決定することをお勧めします。</p>				
航空券手配方法	<p>Experia （※JAL の学生カード（年会費無料）を作って、マイルで行く方法もお勧めします。高価な航空券や月額 Housing の支払いなどを JAL カードで行えば、マイルも溜まりま すし、学生向けの料金で航空券が取れる可能性があるからです。）</p>				
大学最寄り空港名	フィラデルフィア国際空港、または JFK 国際空港	現地 到着時刻	朝 7 時（JFK 空港） 昼 12 時（William H Gray III 30th St. Sta. という Amtrack の駅です。）		
キャンパスへの 移動手段	<input type="checkbox"/> 大学手配の出迎え	<input type="checkbox"/> 知人の出迎え	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 （ <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 電車）	<input type="checkbox"/> タクシー	<input checked="" type="checkbox"/> その他 William H Gray III 30th St. Sta. から歩いて 5 分ほどで UPenn のキャンパスです。
移動の所要時間	羽田から現地のアパートメントまで 29 時間				
空港からキャンパスへの移動の際の注意点、タクシー・公共交通機関で移動する際の行き方、料金等					
<p>Amtrack を利用してフィラデルフィアまで行くルートを選んだ場合は、2 点注意点があります。</p> <p>① JFK 国際空港からマンハッタンにある Amtrack の Moynihan Train Hall at Penn Sta. までの移動時間を考慮して、フライトの予約と列車の予約を行うことです。どこでアメリカの入国審査と税関を通るのか次第ではありますが、JFK 国際空港での所要時間は多めに見積もるべきだと思います。また空港から駅までは、Air Train(空港から Jamaica 駅まで 20 分)と Long Island Rail Road(Jamaica 駅からマンハッタンにある Moynihan Train Hall at Penn Sta. の最寄りまで 40 分)を乗り継いで到着しますので、その移動時間も加味してほしいです。</p> <p>② 到着はなるべく夕方までにすること、そしてメインストリートを歩くことです。フィラデルフィアのリサーチはしていると思いますが、現地の学生も“どこを歩くのか”に細心の注意を払いながら生活している安全ではない都市です。初めなので、暗くなる前に到着することと、なるべく University City を通るメインストリートをつたって現地のアパートメントに行くようにしてほしいと思います。</p>					
大学到着日	8 月 22 日 15 時頃 （24 日がオリエンテーションでした。）				

2.住居について		
到着後すぐに住居 入居できましたか？	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	いいえを選んだ方： 月 日から入居可能だった。
住居のタイプ	<input type="checkbox"/> 寮 <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他（ ）	
部屋の種類	<input type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 <input checked="" type="checkbox"/> その他（シェアスペース（風呂とキッチン）のある一人部屋）	
ルームメイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input checked="" type="checkbox"/> 他国からの留学生 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
住居を探した方法	<input type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input checked="" type="checkbox"/> 自分で探した <input type="checkbox"/> その他（ ）	
住居の申込み手順	<p>① 自分の予算や大学までの距離（＝フィラデルフィアの場合は安全性）の理想を決める</p> <p>② UPenn の Off-Campus Housing のサイトで条件に合わせて検索して、とにかくメールを送る</p> <p>③ 返信のあったところから自分の希望の条件や疑問をぶつけて、とにかく不安要素をなくす（早く返信帰ってくる不動産は、トラブル時の対応なども早いと見るのが良いと考えています。）</p> <p>④ 自分の最終意思決定をしたら、「しっかりと全て契約条件（Agreement や Contract）に目を通した上で」、サインをして費用を支払う</p>	
住居は渡航前に、また渡航後すぐに見つかりましたか？トラブルはありましたか？		
<p>アパートメントは、渡航前に決定していました。今年度より IGSP に参加する学生は、Off-Campus に住むことが決定したようです（これがいきなり伝えられたのはちょっとしたトラブルでしたが、自分で契約するのは本当にいい経験です。最後まで契約を読んで責任を持ってサインすることが本当に大切です）。</p>		
3.留学先でのオリエンテーションについて		
オリエンテーションの有無	<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった	
日程	NSO：22日～28日（必須参加は、24日のみ）	
参加必須ですか？	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 任意参加	
参加費用は？	<input type="checkbox"/> 無料 <input checked="" type="checkbox"/> 有料（金額：約4万円ですが、自動的に引き落とされます。）	
内容と様子は？	<p>基本的に、円滑な学生生活ができるように UPenn が提供しているリソースを細かく説明することと、IGSP と Exchange の学生が交流する機会を提供することが内容でした。College Hall という UPenn 内で最古の建物に、約200名の世界中からの学生が集まるので留学がついにキックオフしたなと感じざるを得ない雰囲気です。</p>	
留学生用特別ガイド	<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった	
授業開始日	8月30日から	

IV. その他、渡航してから必要な手続きについて

1. 現地で滞在許可等の申請の必要はありますか？いつ、どこで、方法は？日数、料金は？トラブルは？

UPenn の留学生対応部署から Tutorial の受講と到着フォームの記入が義務付けられています（これを行わない場合は、VISA のステータスに問題が生じます。）8 月中までに、UPenn のポータルサイトにて無料で完了できます。

2. その他現地でした手続きは？（健康診断、予防接種等）いつ、どこで、方法、日数、料金は？トラブルは？

特にまだ行なっておりませんが、今後 B 型肝炎とインフルエンザ、COVID-19 のワクチンの追加接種があると思います。

3. 現地で銀行口座を開きましたか？手続方法、必要書類、日数、料金は？トラブルは？

口座開設はしていません。現地では電子決済がメインストリームで、学内バイトをする場合を除いて、口座を開設するメリットは特に感じておりません。

4. 現地で携帯電話を購入しましたか？手続方法、必要書類、日数、料金は？トラブルは？

携帯電話は購入していませんが、sim カードを入れ変えて現地の携帯会社のネットワークを利用しております。用意するものは、sim フリーのスマホと現地の携帯会社の電波が入る sim カードです。特に後者は、国内にいる時に申請できるものもありますので、事前によくリサーチください。手続きは全てインターネットで完結し、価格は年間で 5 万～8 万ほどです。Sim カードを日本で使用していたものからアメリカで使用できるものに入れ替えると、電話番号が変更されますので、アプリや SMS の設定などを事前に行う必要があります。

V. 履修科目と授業について

1. 履修登録はいつどのような形で行いましたか？

出発前に（7 月 1 日頃）

オンラインで登録 志願書類に記入して登録 できなかった その他（ ）

到着後に（ ）月（ ）日頃）

オンラインで登録 国際オフィス等の仲介 できなかった その他（ ）

登録時に留学生として優先されることは

あった

なかった

優先が「あった」方はどのように優先されましたか？

優先が「なかった」方はどのように登録しましたか？

現地の学生の後に、留学生が履修登録をします。全学生が利用する履修登録システムを用いて、自分で興味のある講義を登録します。履修できる科目数は、合計で 4 つです。IGSP の場合、LSP や The school of Art and Science から 2 科目履修することが義務づけられており、残り 2 科目は Wharton などの学部から講義履修することができます。履修する講義の組み合わせによって、学費が 100 万～200 万ほど変動しますので、その点は予めご注意ください。

出発前に授業を登録した方は、現地で変更・追加できましたか？また希望通りの授業が取れましたか？

Fall Semester の開始後 2 週間までに Add/Drop をすることができます。講義ポートフォリオを変更する場合は、基本的に空きのある講義（教授とのネゴシエーション次第な部分もありますが）のみ新規追加できます。F1 ビザを持つ留学生は必ず 4 科目履修しなければならない点ご注意ください。

VI. 一週間のスケジュール 授業時間、課外活動、勉強時間等、毎日の生活について記入してください。

	月	火	水	木	金	土	日
7:00	支度	支度	支度	支度	支度	支度	支度
8:00	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話
9:00	支度と通学	勉強	支度と通学	勉強	勉強	勉強	勉強
10:00	戦略論の受講	勉強	戦略論の受講	勉強	勉強	勉強	勉強
11:00	戦略論の受講	勉強	戦略論の受講	勉強	勉強	勉強	友達と会話
12:00	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ
13:00	マーケティング戦略論の受講	勉強	マーケティング戦略論の受講	買い物	友達と会話	友達と会話	友達と会話
14:00	マーケティング戦略論の受講	就活	マーケティング戦略論の受講	就活	就活	勉強	勉強
15:00	講義復習	就活	講義復習	就活	就活	勉強	勉強
16:00	ディナー	筋トレ	講義復習	筋トレ	筋トレ	筋トレ	筋トレ
17:00	経済学の受講	勉強	ディナー	勉強	勉強	就活	就活
18:00	経済学の受講	ディナー	統計学の受講	ディナー	ディナー	ディナー	ディナー
19:00	経済学の受講	風呂など	統計学の受講	風呂など	風呂など	風呂など	風呂など
20:00	経済学の受講	勉強	統計学の受講	勉強	勉強	勉強	勉強
21:00	経済学の受講	勉強	統計学の受講	勉強	勉強	勉強	勉強
22:00	日本と電話	日本と電話	統計学の受講	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話
23:00	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話	日本と電話
24:00	日本と電話 (実際はこの後勉強があります。)	勉強	日本と電話 (実際はこの後勉強があります。)	勉強	勉強	勉強	勉強

VII. 現在までの感想

留学先大学、プログラムについて、授業、宿舎、生活全般についてなど、自由に書いてください。

結論、やはり留学は自分にとって価値あるものだと考えます。

まず、大学生活についての価値です。ペンシルバニア大学の世界トップのビジネススクールでの学習はとても刺激的なものでした。学習内容については、一歩引いてみると日本の大学で教わる内容と大差はありません。ですが、学習方法が根本的に異なります。この点が本当に興味深く、自分の成長につながったと考えます。教授や学生の間では、” We do learn concepts and frameworks. But do not apply them for the sake of applying. We are at the Wharton. Be professional. Think with them of the decision to be made.” の意識が共有されています。つまり、実践(=意思決定をすること)を通じて学ぶことがメインということです。これは日本の大学では経験できたことはありません。その実践についても、多くの種類があります。例えば、毎週課されるライティングで、企業が取るべき事業戦略について 2000words 以内で提案するもの。または、ラーニングチーム(MBAでは一般的な学習方法)を組んでスタートアップへの事業戦略立案を行い、ドキュメンテーションとプレゼンテーションを行うなど。とにかく、アカデミックとプラクティカルの間に身を置いて、インテンシブな学習を日々こなしていくことが求められます。また、これらの学習を共に行う人材についてもとても貴重であると考えます。例えば、教授は世界的に有名な方であったり、誰もが知っている企業を渡り歩いた経験のある方であったり。一緒に授業を受ける学生は、とにかくなんでそんなに頭が切れるのかと度肝を抜かれる方であったり、すでに事業売却を終えてビリオネアになった方であったり。そして外部からゲストスピーカーが来れば、それはグッチやティファニーといった大企業の CEO であったり。つまり、ペンシルバニア大学、特にウォートンビジネススクールで勉強を行うことは、これだけの高い質と幅広いネットワークに参加できることを意味していて、これは留学という意思決定をしないで得られるものではないと思います。自分のこれからを考えて、成長の環境としてペンシルバニア大学を選び、これまでの経験やそこで得たスキルを強みとして持ち、とてもハイレベルな環境においてその力を発揮して貢献をし、インプットとアウトプットにて学習成果を相互的に高めていく。この経験ができることは、価値そのものであると考えます。

そして、異文化との接触、理解、適応における価値です。日本で 22 年間育った留学生として、このアメリカ、ペンシルバニア大学の地で今何を求められているのかという点について、日々考えさせられています。今の答えは、ありがちですが“個であること”であると考えます。そもそも日本人であることは、少なくともペンシルバニア大学ではユニークであると判断されます。日本企業についての意見や、日本からみた海外の企業について意見を求められる機会は人よりも多くあります。アメリカに来たからと言って、日本人であることをレバレッジにできなくなることはありません。ですが、代表的な日本人であると、アメリカで上手く適応しなければならぬ点があると思います。それは、個であるだけでなく、個として主張することです。戦略論の授業のイントロで、先生がこんな言葉を言いました。“If you don't participate in class, you are nothing. Shame on you.” この言葉を聞いて何を思うかによって、現地でやらなければいけないことが変わってくると思います。意見がある、疑問がある。それだけでは価値がなく、主張し、他者との意見とニッティングしていかなければならないという意識がとても強いです。同質性ではなく、異質性を価値とする社会でサバイブする力を模索しながら身につけていくことは、物事的前提が頻繁に変化する今後の将来で生き抜く上でも役立つと思います。海外で生活すること自体が価値であると考えます。

留学先大学を目指す学生に向けてのアドバイスをお願いします。

留学を目指す皆さん、まずぜひ自分なりの考えを持って留学に挑戦してみてください。これが最も伝えたいメッセージです。2021年を境に、留学の意義が変わったと考えます。円安やインフレ、多方面で緊迫する世界情勢といったようなダイナミックな環境で、留学をすることはとても大きなリスクです。私自身、当初1年間の予定だった留学を経済的な理由で半期することになりました。自分にとっての、留学のモチベーション、留学の目的、留学の価値のある在り方はどんなものであるのか。これらについて、日常レベルで様々な情報をインプットしながら、考えを修正しより良い意思決定を行うことが求められます。とても大変そうと思うかもしれませんが、大変だと思えます。ですが、個人的にはとても興味深い体験であり、価値があり、自己の成長につながる機会であると考えています。明治大学から奨学金をもらって、世界トップの大学で学習できる経験は、本来したくてもできないものです。ぜひ挑戦してほしいと思います。ぜひ最高の半期、1年にしてください。応援していますし、円安などが落ち着いて安定的に留学できるようになる日が来ることを願っております！